
茶色いやつ

ケニーD

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

茶色いやつ

【Nコード】

N8088Z

【作者名】

ケニード

【あらすじ】

動ナビ5号として書いていたネタの改稿版です。

緩やかな調のジャズが流れる落ち着いたバーで、俺はカウンターで煙草を吸いながらウイスキーを飲んでいた。

マスターは気軽に話しかけてくることも無く、独りが好きな人間には居心地のいい場所だ。

と、扉が開いたことを知らせる軽い鈴の音とともに客が一人入ってきた。

「いらつしやいませ」とマスターは静かに言う。

席は他にも空いているのに、客の男はわざわざ俺の隣に腰掛けた。見ると、風貌こそスーツを着たサラリーマンのそれだったが、眼光だけは異様に鋭く、こいつもまた俺に情報を求めに来た人間だということがすぐにわかった。

男はまっすぐ前を見ながら俺に声をかける。

あなたが動ナビ5号さんですか？ と。

俺はいつも正体を偽らない。

なんだい？ アンタ。俺に何か用か。

いつもそうやって答えている。

動ナビ5日前、俺は生死を分かťほどの経験をした。1年に一度ほど、そのような事件が起きる。

この男は、俺にその情報を求めに来たのだ。

危なかったそうですね。

深い嘆息のあと、俺は答えることにした。

俺がミクシーでかわいい女の子の画像を張っているユーザーに足跡を残しまくっていたときのことだ。

第六感がなにかたならぬものを感じ取った。背後、いや、左下、床。

そこには黒い塊が這いつくばっていた。
宿命！ これは、人間の生活において、何度も何度も克服しなければ

ばならない試練！

俺は一瞬、恐怖で動けなくなった。

どうか、あっちへ行ってください。

いや、違う。逃がさん！ 始末する！

恐怖を乗り越えた俺は、一瞬でもヤツに恐怖させられてしまったことに対する怒りで立ち上がり、扇風機の下にもぐりこんだヤツめがけ、手に取った殺虫剤を噴霧した。その間、動ナビ5秒。

地べたを這いずり回るしか能のねえテメーらごときが、人間様の発明した殺虫兵器にかなうと思っっているのか！ と俺は静かに笑った。だが、ヤツは生きていた。生きて扇風機の下から這い出てきたのだ。しかしどうやら虫の息。動きはのろく、じきに絶命するように思われた。

俺はダメ押しとばかりに掃除機を引っ張り出し、汚物は吸引だ！と吸い込んでやった。

おそらく、今はもう、掃除機の紙パックの中で絶命していることだろう。

仮に生きていたとしても、あの埃だらけの紙パックから出てこれるとは思えない。

ウイスキーを一気に飲み干し、一呼吸置いてから微笑して、あの時、もし殺虫剤が無ければ、俺はヤツに殺されていただろう、と告げると、男は、わかります、と笑った。

俺はそんなに弱そうに見えるのか……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8088z/>

茶色いやつ

2011年12月25日21時51分発行